

2011 年度第 1 回連携推進委員会 議題案
地域 NGO の活性化と市民の国際協力への共感・参加の強化について
および具体策①地域 NGO 活性化のための「N 連」改善提案

1. 議題提案の背景と目的

昨年度、外務省にて取りまとめられた、「開かれた国益の増進—世界の人々とともに生き、平和と繁栄をつくる—ODA のあり方に関する検討（以下、あり方と略す）」においては、その議論のプロセスで NGO も参加し、意見を述べる機会を得た。「あり方」によれば、「日本の平和と繁栄のため、国際社会全体の共同利益への貢献」が必要であり、そのためには「国民の強力な理解・支持」が必要とされている。この理念については大いに共感しつつも、その内容は、地域の NGO から見ると、いかにも「霞ヶ関目線、中央目線」で、国民の大多数が生活している地域の現状には必ずしも即していないと思われる。国際協力に関心がない層に対し、いくらメディア等を使って「広報」を行っても実効性がないことを地域の NGO は実体験を持って知っている。

真の意味での共感や参加を得るためには、本当に市民が、地球規模課題はまさに自分たちの地域社会や生活の問題であることを、身近なところから実感や実体験をもって感じる事が重要なのであり、地域の NGO はまさにそうした取り組みを市民の目線で長年行ってきたのである。現政権においては政治主導のもとで大臣等政務 3 役が直接 NGO と対話をするようになってきたが、「地域の実情を踏まえて、日本全体や国際社会全体のことを考える」という姿勢は、まさに地域の NGO と合致するところであり、歓迎したい。

本提案の目的は、地域の NGO の活性化を通じて、市民の国際協力への共感・参加の強化を図り、市民一人ひとりが「地球規模で考え、地域で行動する」ことによって、地域社会の活性化および国際社会全体の共同利益に貢献することにある。

本提案においては、「地球規模で考え、地域で行動する」という観点から、地域の NGO や市民として、地域 NGO の活性化とより実効性のある市民の国際協力への共感・参加の強化について、論点を整理しつつ、年間の協議を通じていくつかの具体策を提案していきたい。

＊具体策①「地域 NGO 活性化のための「N 連」改善提案」の背景については、別紙参照

2. 議題論点

＊全体の議題論点につき、別添「地域 NGO の活性化にむけての提言」を参照。

＊具体策①「地域 NGO 活性化のための「N 連」改善提案」の背景については、別添参照。

3. 出席希望する外務省側担当者（部局等）

外務省国際協力局民間援助連携室

外務省国際協力局政策課ないし「あり方」担当部局。

以上